

平成 30 年度「中東講座」報告書

去る 11 月 22 日（木）、平成 30 年度「中東講座」を明治記念館にて開催した。

本講座は、中東の政治・経済・ビジネス等に関心・興味をお持ちの方々を対象に「中東を深く理解する」機会をご提供することを目的として毎年開催し、今回は 104 名の参加を得た。

毎回、各分野の専門の講師をお迎えし、中東地域の政治・経済・ビジネス・エネルギー、中東と日本の文化比較といった内容を分かりやすく解説して頂いているが、今回は下記の通り各講師にご講演頂いた。

「政治」については、国際政治学者の高橋和夫様より「アメリカ中間選挙と中東」と題し、11 月 6 日に行われた中間選挙の結果を分析。高橋氏は、選挙結果による中東政策は短期的には大きな影響は無いが、中期的には現政権はやりにくくなると予測。そして、今回の民主党とりわけ女性の躍進、そしてこれまでにはみられなかった米国内でのユダヤ系議員によるイスラエル批判がタブーにならなくなってきた現状は、米国と中東の関係の新しい変化を示す大きな流れであるとの見解を示した。

「経済」については、(株)日本経済新聞社編集局特任編集委員の脇祐三様より、「中東を構造的に理解する」と題し、中東地域における人口増加と社会の若齢化、若者の雇用問題、インフラ再整備と産業多角化の必要性、財政の持続可能性、デジタルメディアの浸透など様々な話題を取り上げ、わかりやすく簡潔に解説して頂いた。

「エネルギー」については、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構首席エコノミスト野神隆之様より「原油市場の現状と今後の展望」と題し、最近の原油下落が世界経済・日本経済に大きな影響を与えていること、金融と先物を含む原油価格決定の要因、需要と供給の観点より短期的、中長期的な原油市場の展開予測等について解説して頂いた。また、今後の原油市場を理解する上で重要となる価格反応性の問題や急速に生産が拡大する米国シェールオイル並びに中国の石油需要と輸入動向の変化についても説明して頂いた。

「ビジネス」については、国際石油開発帝石(株)代表取締役会長北村俊昭様より「アブダビにおける油田開発等の日本最大の上流企業としての取り組み」と題し、本年 11 月に日本企業として初めてオペレーターとして生産を開始した大規模 LNG プロジェクト「イクシス」並びに自ら現地に出向き陣頭指揮を取ったアブダビでの油田権益の取得や延長につき、同地における 40 年以上の操業の実績、様々な分野での社会貢献活動、アブダビ政府との信頼関係構築の要諦等についてご講演いただいた。

最後に、「文化」については、アラムコ・アジア・ジャパン株式会社執行役員ビジネス・オリジネーション&テクノロジー部長、サード・アルカティーブ博士より、「インターネットでは知り得ないサウジアラビア」と題するご講演を頂いた。日本在住歴 30 年以上の同博士より、ご自身が撮影した出身地の写真などを紹介しながら流ちょうな日本語で、サウジアラビアの文化、日本とのサ

ウジアラビアの共通点・相違点等についてご講演いただいた。

<結果>

- ・受講者のアンケート結果では、「様々な観点から中東を理解することができた。」「各分野の著名な講師の方々から直接詳しい話を一日で聞くことができ、大変よい機会でした。」等、満足度が伝わるコメントが多数寄せられた。
- ・賛助会員企業を含む民間企業・団体を始め、中東に広く関心を持つ方々へ、中東地域的话题をタイムリーにご提供することができた。



高橋講師 「アメリカ中間選挙と中東」



協講師 「中東を構造的に理解する」



野神講師 「原油市場の現状と今後の展望」



北村講師 「アブダビにおける油田開発等の日本最大の上流企業としての取り組み」



アルカティーブ講師 「インターネットでは知り得ないサウジアラビア」



会場 明治記念館「曙の間」